

地元・四日市農芸高等学校の生徒がデザインしたメイン花壇が完成 “コカ・コーラ”鈴鹿8耐でアパレル製品の資源循環を実現 着用後のスタッフシャツを堆肥化し、会場花壇へ活用 ～2026年もP-FACTS対応スタッフシャツを提供、2年間着用後に回収・堆肥化へ～

ホンダモビリティランド株式会社（本社：三重県鈴鹿市、代表取締役社長：斎藤毅）は、株式会社村田製作所の完全子会社である株式会社ピエクレックス（本社：滋賀県野洲市、代表取締役社長：玉倉大次）と締結しているサステナビリティパートナー契約の取り組みとして、2025年に開催された「FIM 世界耐久選手権 “コカ・コーラ” 鈴鹿8時間耐久ロードレース（以下、鈴鹿8耐）」で着用されたスタッフシャツを回収・堆肥化し、その堆肥を活用して育てた花々を用いた花壇を、2026年の鈴鹿8耐会場内に設置することをお知らせします。

また、両社は2026年もサステナビリティパートナー契約を継続し、2026年大会においてもピエクレックスは「P-FACTS」（ピーファクト）対応のスタッフシャツ約1,400枚を提供します。



取り組みの背景

鈴鹿8耐では、毎年約1,000枚のスタッフシャツを制作しています。しかし、スポンサー企業のロゴが入っていることから再利用が難しく、大会終了後は焼却処分せざるを得ないという課題がありました。

こうした課題を受け、ホンダモビリティランドとピエクレックスは2025年にサステナビリティパートナー契約を締結。ピエクレックスが推進する循環インフラ「P-FACTS」（ピーファクト）を活用し、スタッフシャツを回収・堆肥化して植物を育てる資源として循環させる取り組みを開始しました。

■ イベント開催概要

大会名 : 2026 FIM 世界耐久選手権 “コカ・コーラ” 鈴鹿8時間耐久ロードレース 第47回大会
開催日 : 2026年7月3日（金）～5日（日）
会場 : 鈴鹿サーキット（三重県鈴鹿市）
公式サイト : <https://www.suzukacircuit.jp/8tai/>

スタッフシャツのたい肥化・循環

■ 2025年の鈴鹿8耐スタッフシャツを堆肥化し、メイン花壇に活用

ホンダモビリティランドとピエクレックスは、2025年に開催された鈴鹿8耐においてスタッフが着用したP-FACTS対応スタッフシャツを、大会終了後に回収しました。



回収したシャツは、ピエクレックスが推進する循環インフラP-FACTSの仕組みを活用し、使用後に廃棄するのではなく資源として循環。堆肥化によって生まれた堆肥を活用して花を育て、2026年鈴鹿8耐会場内のメイン花壇に使用しています。これにより、モータースポーツの現場で使用されたアパレル製品が、植物を育てる資源として新たな役割を担う循環が実現しました。

■ 地元の四日市農芸高等学校の生徒が花壇制作に参画

花壇の制作は、地元・三重県立四日市農芸高等学校の生徒の皆さまを中心に実施いただきました。

生徒の皆さまが育成・植栽した花々が鈴鹿8耐のメイン花壇を彩り、大会期間中、多くの来場者を迎えます。地域の若い世代とともに、資源循環や環境への取り組みを形にすることで、サステナビリティをより身近に感じていただく機会の創出を目指しています。



■ 2026年大会もP-FACTS対応スタッフシャツ約1,400枚を提供

両社は2026年もサステナビリティパートナー契約を継続し、鈴鹿8耐スタッフ向けにP-FACTS対応スタッフシャツ約1,400枚を提供します。

2026年モデルは開催年を限定するデザイン表現を見直し、2年間継続して着用できる仕様としました。これにより、製品の長期利用を促進するとともに、環境負荷低減を図ります。また、2年間の使用後には回収・堆肥化を実施し、植物を育てる資源として活用する計画です。



株式会社ピエクレックスについて

イノベーションを通じて世界に貢献する村田製作所の100%子会社として、企業ビジョン「“でんき（電気）のせんい（繊維）”で世界を変える」を掲げ、電気の繊維「ピエクレックス」を通じた革新を推進しています。村田製作所と帝人フロンティアの共同出資によって設立され、両社の強みを融合させた新素材「ピエクレックス」を開発しました。「ピエクレックス」は革新性とともに環境へのやさしさを兼ね備えており、アパレル、ヘルスケア、一般消費財、産業分野など、幅広い用途に応用可能です。

現在、株式会社ピエクレックスは多くの繊維関連企業と協力し、持続可能な社会の実現に向け、循環インフラ「P-FACTS」（ピーファクト）の社会実装に取り組んでいます。P-FACTS認証の製品を「着るだけ、使うだけ」で、地球にも人にもやさしい未来を実現するために、今後も新たな価値を創造し続け、社会に貢献していきます。



モータースポーツの舞台から資源循環の輪を広げる

両社は、アパレル製品を「作って終わり」「使って終わり」にするのではなく、「使う」「回収する」「堆肥化する」「植物を育てる」という循環につなげる取り組みを推進しています。

今後もモータースポーツを通じて来場者や地域の皆さまとともに資源循環への理解を深め、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

P-FATCSの仕組みを活用したスタッフシャツの循環モデル

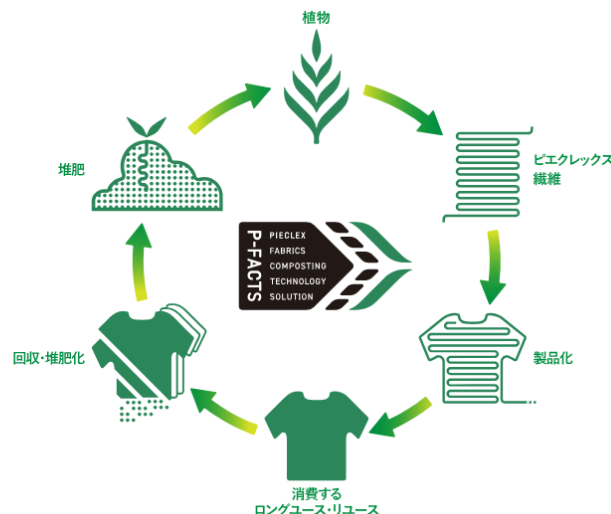


■「P-FACTS」(ピーファクツ) について

「P-FACTS」(ピーファクツ: PIECLEX FABrics Composting Technology Solution) は、ピエクレックス社が植物由来のポリ乳酸素材「電気の繊維」ピエクレックスを使用したアパレル製品や繊維製品を回収し、堆肥化までを一貫して行う循環インフラです。多くのパートナー企業、自治体、福祉施設、学校法人などのステークホルダーと連携し、既に運用が始まっています。

この循環インフラは、地域で使用された製品を地域で再利用する「地着・地消・地循」の考えに基づき、消費者が簡単に参加できる持続可能なファッション社会の実現を目指しています。「P-FACTS」に対応する製品には、「堆肥化し新しい植物を育む」ことを保証するP-FACTS認証マークが付与されており、環境にやさしい選択肢を提供しています。

PIECL
EX
FAbrics
Composting
Technology
Solution



P-FACTS 認証マーク

繊維が堆肥となり、新たな植物が芽吹く様子をデザインしています。